

ホソバセセリとは高知五台山の山腹でクロコノマチョウの蛹探索中に初の出会いを果たしているが、なんとその2日後の夜間に自宅の蛍光灯のあかりめがけて部屋へと飛び込んできたチョウとしても忘れることのできない種だ。その後も夜間に家に飛び込んできたチョウは経験がない。「高知市五台山の蝶」として確実な記録のある種について文書をまとめてあるが、ホソバセセリについては以下のような記載をしている。

29. *Isoteinon lamprospilus* (C.Felder & R.Felder,1862) ホソバセセリ

【初見】 July 5,1959 【終見】 July 15,1959

【食草】 ススキ

【生態】 局地的に極めて短期間の発生をみる。現在確認できている産地は独鈷水と鹿の段、及び唐谷地区だが、観察者の行動範囲に依存しているだけで実際はもっと広く分布している可能性がある。クロコノマチョウの場合とは異なり、やや明るい道路脇のススキの食痕に注目すれば、幼虫や蛹の発見は難しくない。夜間、蛍光灯への飛来例あり (July 7,1959)。

郷里の五台山ではススキの葉を筒状に綴った幼虫から蛹までの巣を野外で比較的容易に発見しており、そのきっかけは同じく幼虫がススキの葉を食べるクロコノマチョウの幼虫や蛹を探している過程で、葉っぱに特徴的な巣をつくるホソバセセリにも気づいたという次第。

セセリチョウの仲間はキマダラセセリの項でも触れたように、とにかく動きがすばしっこく、ネットインしようものならそのネットの中で強い筋力で羽をおもいっきりばたつかせるため、きれいな鱗粉がはがれるとか、背中部分に密生する(そろっていればきれいでもとも見栄えがする)毛も取れやすくてみともない照りの出たハゲ状態となるなど、とにかくセセリチョウの仲間は標本とするのにはとても手を焼く種なのだ。したがって筆者はセセリチョウの仲間にかぎっては標本とした種がきわめて少ない。さいわい最近では性能のいいデジカメやハイビジョンビデオカメラを駆使できるようになったことで、あらためてセセリチョウにも強い関心を寄せ始めている。

2008年 年から絶滅危惧 I 類指定のヒメヒカゲの保全活動に打ち込むようになって、その過程でセセリチョウの挙動にも気をつけているのだが、昨年からはホソバセセリにも出会う機会が増えてきた。翅表の白紋が黒地にくっきりと映え、裏面も他のセセリチョウにはない独特のめりはりのあるきれいな模様で、カメラのターゲットとしてはなかなかいいチョウだ。人の気配に敏感なセセリチョウの中では、いったん飛び去られても比較的せまい領域にとどまって近くの草葉にとまってくれる習性がありがたい。



July 2, 2009
加古川市志方町



July 2, 2009
加古川市高御蔵山